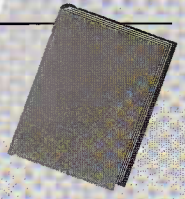


Book Review

書籍



神戸新聞明石総局編『あかし
本 時のまちを創る 海のまち
に生きる』（ペンコム、本体1
800円）

生活に溶け込んで普段はさほ
ど意識しない地元の歴史や文
化、魅力に光を当てた、神戸新
聞明石版の長期連載を書籍化。

本企画は元明石総局の金山成美
記者が、情熱を込め「時」「子
午線」を解説する学芸員や、古
里の海のため奮闘する人々に出
会い、そのひたむきさを広く伝
えたいと直訴し誕生した。時代
の流れのなかで変わる風景もあ
るが、明石に生きる人々の郷土
愛はずっと変わらない。

森田健司著『江戸の瓦版 庶
民を熱狂させたメディアの正
体』（洋泉社、本体1000円）

瓦版は現代の号外のように、
人が多く集まる場所を狙い、江
戸市中の事件の真相を知らせる
ため小額で頒布された。時代劇
で頻繁に目にするが、非合法の
ため実像はあまり知られていな
い。当時の史料の情報と、実際

に残された瓦版を基に、その実
像に迫る。著者が所有する瓦版
の画像を多数掲載、内容や時代
背景を解説する。庶民に寄り添
い存続した瓦版を通じ、庶民の
心の歴史が理解できると語る。

浅野詠子著『ダムと民の五十
年抗争 紀ノ川源流村取材記』
（風媒社、本体1800円）

大滝ダムは2013年、紀ノ
川上流の奈良県川上村に完成。
消滅した白屋地区の住民の思い
から、ダムとの半世紀をつづる。
1964年からの条件闘争の
中、81年に求めた地滑り対策は
とられなかった。22年後の試験
湛水中、地盤に亀裂が走る。住
民は今後の生活を巡り対立し離
散。集落の文化は失われた。補
償金を狙い訴訟する者との理不
尽な批判が残る。先祖伝来の土
地をなくした人々の哀切を描く。
最後に校閲に関する書籍を2
冊紹介。まずは朝日の前田安正
著『マジ文章書けないんだけど』
（大和書房、本体1300円）。
対象は大学3〜4年生から、社

会人になって文章を書くことに
戸惑いを感じている人。就活を
前にエントリーシートが書けず
焦る大学生・浅嶋かずと謎のお
じさんとの軽妙な掛け合いで講
座が進む。気付きをノート形式
で直接書き込める。対象との距
離感や推敲を体得したさすがに、
はたして内定通知は届くのか。

2冊目は毎日の岩佐義樹著
『毎日新聞・校閲グループのミ
スがなくなるすごい文章術』（ポ
プラ社、本体1300円）。文
字を大切にしないと、文字に報
復される――。著者がミスを重ねて見つけた真理だ。文例を基
にやさしく解説する社会人向け
の書籍。例えば2014年、安
倍晋三首相は会見で「すべから
く新たな挑戦であります」と述
べたが「すべからく」の意味は
「すべて」ではなく「せひとも」
で、「すべからく」新たな挑戦を
すべき」と続けるべきだと指摘。
校閲部門の蓄積を開示し、一般
の人も気を付けるべき点を共有
したいとの思いを込める。